

ごあいさつ



会員の皆さまにおかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

また、平素は格別のご高配を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

ここに、当金庫第75期（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）の業務概要につきまして、ご報告申し上げます。

令和4年度の国内景気を振り返れば、前半はロシアによるウクライナ侵攻に伴う欧州経済が不安定な状況となった影響による原油高などのエネルギー価格高騰と円安が同時に進み、国内企業の仕入コストは大幅に増加しました。秋

頃になり、新型コロナウイルス感染拡大が落ち着き始めたことで経済活動が活発化するなど景気の持ち直しが見られてきました。冬には新型コロナウイルス感染の再拡大、物価高騰による不景気感、日本銀行によるイールドカーブ・コントロール修正等々、かつて経験したことのないスピードで様々な環境変化が発生し、先行きが見通しづらい状況となりました。

令和5年に入り、日本政府がウィズコロナ政策へ方向転換したことで、行動制限の緩和による個人消費行動の活発化やインバウンド需要増加などにより、ようやく国内景気に明るい兆しが見えてきたところであります。

当金庫を取り巻く経営環境におきましても、金融緩和政策の長期化による影響で資金運用利回りの低下が続く中、貸出金は取引先中小企業の資金需要低迷及び地域内の金融機関競合で伸び悩むなど、厳しい収益環境が続いております。

このような中、当金庫の「Change & Growth 3ヵ年経営計画」の最終年度である令和4年度は、「持続可能な収益体制と強固な顧客基盤の構築」をスローガンに掲げ、基本戦略である「地域密着型金融の深化」、「利益構造の再構築」、「経営管理の高度化」を追求し、『構造改革の実現と更なる成長ステージへの飛躍』の実現を目指して諸施策を推進してまいりました。

その結果、預金積金期末残高は、前期比141億円増加の1兆4,271億円、貸出金残高は同53億円増加の6,195億円となり、当期純利益は15億円を確保することができました。

また、自己資本比率は13.69%となり、国内基準（4%）を大幅に上回る高い健全性を引き続き維持しております。

これからも、創業の理念である「愛郷の心」と「堅実経営」の精神のもと、地域経済を支え、地域とともに発展することを第一義として、役職員一丸となり邁進してまいりますので、今後とも格別のご愛顧、お引き立てを賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

令和5年6月

理事長 竹田知史